

## 研究会・シンポジウム報告

2022年10月4日（火） 定例研究会報告

テーマ： 感染症流行の数量的把握をめぐる歴史学

報告者： 永島剛

時間： 12時20分～13時30分

場所： 生田校舎 10212 教室

参加者数：12名

報告内容概略：

新型コロナウイルス感染症のパンデミック下では、感染者数や死者数が毎日報道され、それを気にする日常が続いた。感染症の患者数・死亡数を記録・集計し、それを公表するということは、歴史的にみて、いつから、どのような経緯で行なわれるようになってきたのだろうか。本報告では、日本やイギリスの感染症届出・統計制度の展開が、その問題点とともに跡付けられた。近代以降の感染症統計のみならず、とくにイギリスについては、ペスト流行の把握を目的とした「ロンドン死亡表 (London Bills of Mortality)」という近世の史料が紹介された。こうして残された患者数・死者数の統計を使うことで、どのように歴史をみることができるか。疫病の被害の数量的な情報が、それぞれの地域や時代状況を考えるうえで、有用な糸口になりうることが示唆された。もちろん患者数や死者数は「総計量」であるから、個々のケースに注目するミクロな視点や、質的な側面への視点との補完関係を意識しながら歴史を考えることも必要である。また、数値を「一人歩き」させることも望ましくない。こうした留意点を踏まえ、それぞれの時代・社会で、データが集められた方法・意図・時代背景などをふまえ、その限界を意識することの重要性が指摘された。時宜を得たテーマの分析と知見の報告を受けて活発な質疑応答が行われた。

記：専修大学経済学部・飯沼健子

2022年10月7日（金） 定例研究会報告

テーマ： 再生可能資源の貿易と管理に関する理論分析（小川報告） 他3本

報告者： 小川健（所員）、若松宏樹（農水政策研）、阪井裕太郎（東大）、山田二久次（三重大）

その他： 取りまとめ：松井隆宏（東京海洋大／TEMF研究会）

時間： 13:00（1:00 p.m.）-17:40（5:40 p.m.）

場所： Zoom オンライン

参加者数：10名

報告内容概略： 今回は漁業経済における TEMF 研究会との共催で4報告が行われた。ここでは第1報告を中心に報告を行う。第1報告は小川健（所員）で、1970年代に盛んとなった技術的規制を利用して各国保有の水産資源における貿易損失への対処が可能か否かの分析を行った。産地・水域が違えば魚種の違いを始め、自国産・外国産の水産資源財は消費者には異なる財と認識し、その選好は国内にも異質性を持つ。Ogawa（2017）では先行研究における（純）輸出国側の貿易損失が一部消費者に限られることを示していた。本報告では技術的規制を取り入れることで、従来貿易損失の原因とされてきた純輸出国側の資源量の開国による減少は防げるのに一部消費者の貿易損失は残る事、国全体ではこの技術的規制の活用により、純輸出国側は貿易利益となることを報告した。質疑応答では技術的規制は「国として管理が現実にできなかったから」他の管理法が必要になったのではないかと指摘や、動学化が本当は不要ではないかと等の指摘が出た。第2報告では若松研究官（農水政策研）による水産エコラベルについての報告が、第3報告では阪井先生（東大）による（ITQとは異なる）IQ（譲渡不能な個別割り当て）の導入による影響についての報告が、第4報告では山田先生（三重大）による三重県のブリ定置網に関する推定で、LASSO 回帰等を利用して推定すべき要因変数を減らした形での分析が報告された。

記：専修大学経済学部・小川健

再生可能資源の貿易と  
管理に関する理論分析

小川健(OGAWA, Takeshi) 専修大・経済学部・准教授  
(090)4255-1796, takeshi.ogawa.123@gmail.com  
2022年10/7(金) TEMF研究会/専大社研・飯沼G